



令和3年度 文化財愛護ポスター



最優秀賞

磯部小学校(6年)
森田 紗菜さん

今月は、ふるさと学習館で開催中の企画展から彫刻家・半田富久について紹介します。

半田富久と海音寺潮五郎

半田富久は昭和11年(1936)碓氷郡原市町(現安中市原市)に生まれ、高崎高校を卒業後、東京藝術大学で彫刻を学びました。その後、明治大学大学院の建築科に進学し、日本建築を学ぶ中で石の魅力にとりつかれ「石の道」を探索するようになります。

半田と歴史小説『天と地と』の著者として広く知られる作家・海音寺潮五郎との交流は、昭和38年、潮五郎が実家「末富家」の墓の制作を依頼した事で始まりました。潮五郎は当時27歳の若者だった半田の才能と人柄を高く評価し、以降半田の個展に紹介文を寄稿したり夫婦そろって観覧に訪れたりと目をかけていました。

半田の作品について「最も沈黙しているものほど最も奥が深く、最も複雑な屈



中仙道板鼻宿の碑
(揮毫 海音寺潮五郎)

折がある。石がそれである」と語った潮五郎は、半田にとって「師友」と呼べるかけがえのない存在だったのでしよう。潮五郎逝去の折、半田は葬儀祭壇および石棺・石刀も制作し、その後行われた全米巡回石彫展に際しては遺品の着物を身につけました。こうしたエピソードからも二人の親交の深さがうかがわれます。

なお、板鼻公民館前には『中仙道板鼻宿』を著した同地出身の川島一郎を顕彰する「おかご」型の碑があります。同書に感激した潮五郎が揮毫し、半田設計のもと昭和48年に建立されたもので、半田の故郷安中に残る友好の足跡のひとつです。

世界の半田富久

半田の作品は「抽象的な手法で、現代に抽出された日本の伝統的な美意識を表現した」として、日本に先んじて米国で高い評価を受け、彫刻家としては日本人初の快挙となる全米巡回展が企画されました。

昭和54年から翌年にかけて開催された全米巡回石彫展「石の道(The Way of Stone)」は、全米5都市(リンカーン・ニューポート・ヒューストン・シカゴ・ロサンゼルス)をめぐる、当時の現地の新聞で「ブランキューシ(ロダンの弟子)を連想する」、「墨絵の筆法が感じられる」などと絶賛されました。また、石彫作品自体が珍しかった米国では硬質な御影石を素材とする半田の彫刻作品は非常に斬新で、巡回展中に実際に御影石をノミで「むしって」みせるイベントを行うと、観客からは感嘆の声がもれたといいます。

12月27日(月)は
ふるさと学習館は臨時休館です

12月28日(火)～1月4日(火)は
ふるさと学習館、生涯学習施設
ともに休館です



安中市学習の森ふるさと学習館第22回企画展

ゆるぎの美学 巨石彫刻家 半田富久

安中市出身の彫刻家半田富久の作品と生涯を紹介する企画展示です。展示期間：令和4年1月24日(月)まで



問合せ▶安中市学習の森 ふるさと学習館 午前9時～午後5時(入館・ミュージアムショップは午後4時30分まで)
安中市上間仁田951 Tel. 027-382-7622 mail: furusato@city.annaka.lg.jp
【12月の休館日】12/7(火)、12/14(火)、12/21(火)、12/27(月)、12/28(火)～1/4(火)